山口県文書館

文書館ニュース

もんじょかん

30号
1996

伊能忠敬生誕250周年、フランスにあった中図８枚が千葉県に里帰り。伊能図研究熱が高まり、当館が所蔵する大図７枚（周防・長門）の価値が見直されている。

御両国測量絵図（部分）毛利家文庫58絵図241

目次

山口県文書館の諸懸案解決にむけて …… 2
深まる中国地区文書館の情報交換 …… 3
文書館の防災対策と災害対策ネットワークを！ …… 4
〈他館見学〉あいつぐ文書館の建設 …… 5
〈史料紹介〉「三坂圭治文庫」と「石川卓美文庫」 …… 6
〈誌上展示〉秀吉とねねの文書 …… 7
〈ワンダー文書館〉ブンショ（文書）をモンジョ（文書）へ …… 8
〈閲覧室から〉進む文書目録の刊行 …… 9
写真メモ・1996年 …… 10
お知らせ・ご案内 …… 12

山口県文書館の諸懸案解決にむけて

故司馬遼太郎氏を迎えて、大々的に行った山口県文書館創立三十周年記念行事が、つい昨日のように想い起こされる昨今であるが、今後それほど遠くない時期に創立四十周年を迎えることとなった。すなわち二〇世紀最後の年である平成十一年（一九九九）が、文書館創立四十周年に当たる。

山口県文書館の歴史をなぞってみると、過去三〇余年の間に紆余曲折をたどりながらもその都度改善を重ね、問題点を克服しながら今日に至っている。しかしながら、ハード面・ソフト面共に充実した他県の新設文書館を視察してみて、当館が時代の趨勢というか、文書館界の新しい流れに取り残されているのではないかという焦燥感に駆られる。その中にあって、当館職員は資料の収集こそは文書館の最大使命であるとの認識の元に、積極的にあたってきた。その反面、資料収集が成果を上げれば上げるほど、逆に書庫問題が大きく立ちはだかってきた。すなわち、近年当館にとって最大の課題は、収集資料を収蔵する書庫を何とか確保することであった。

文書館にとって、「書庫こそは命」とか「文書館の建設とは書庫を建設することなり」など、云い習わした言葉があるが、まさに当館にとっては、書庫問題は長年最大の懸案であって、俎上に上って久しい。その間、三〇年間を非公開文書としている行政文書・行政資料等については、別棟中間的書庫に収蔵し、出納に必要な文書については書庫内のスペースなどをやりくりしてどうにか賄ってきた。

文書館書庫の狭隘性については、何時しか県議会の先生方の知るところとなり、県議会においても昭和六十三年に三木議員が、ついで平成五年には竹田議員がそれぞれ文教警察委員会に於いて

「山口県文書館は書庫が狭隘であるときくが、建て替え計画はないか」

と質問されるなど、県議会においても注目され、関心の的になっていたことが知れる。

当館では、最大の課題である書庫問題をはじめ、以下のような諸問題について検討を加えたいと思っている。

・資料の収集態勢の強化
・資料の整理の迅速化
・資料検索のコンピュータ化
・古文書講座・歴史講座等の普及活動の充実
・県内所在資料の調査収集の促進
・大内氏の日朝・日明交易関係資料の調査促進
・明治維新関係の文書の悉皆調査の促進
等々

来年度は、これらの諸懸案の解決に向けて取り組むとともに、当館の諸活動に対して活性化を図り、ひいては山口県民が利用し易く、親しみやすい文書館として確立する理想を目指して、何らかの指針を示す年となることを期待している。

その指針を受けて、新しい文書館に飛躍し、設立四十周年が記念すべき年となることを希望する。

（小山）

深まる中国地区文書館の情報交換

中国地区文書館等職員連絡会議は、一九九一年度より、山口県文書館・広島県立文書館・鳥取県立公文書館・広島市公文書館の順で開催され、本年度は五回目として当館で開催されました。この間、公文書館の設立を目指している島根県総務課・岡山県総務学事課の参加も得て、館運営等の諸問題について議論を深めて来ました。

もともとこの会議は、中国地区文書館職員の交流と情報交換を目的として発足しました。したがって会議では、日常の業務の中で、職員が体験したり感じたりした諸問題を、率直に話し合っており、解決の糸口を見つけたり、発展の土台となる内容の検討が、議題の中心となっています。

では、これまでの五回の会議でどのようなことが話し合われたのでしょうか。取り上げられた議題を調査・収集・保存・公開・利用・普及・アーキビスト（文書館専門職員）養成問題・その他に分類すると、それぞれ九％・二三％・九％・二七％・〇％・〇％・九％・二三％となります。この数字に見られるように、収集・保存および公開の分野の議題が六割を占めており、その中では行政文書の保存と公開に関する議題が中心となっています。

具体的には、「県の地方（出先）機関の公文書保存について」、「他部局等の文書収集について」、「公文書の引き継ぎを円滑に行うための手だてについて」、「保有公文書の公開基準について」、「新憲法制定後に作成された公文書の公開について」等の議題が話し合われました。このような議題は、文書館業務の中核を端的に示していると言えましょう。

元来、文書館とは、文書館を設置した組織、いわゆる親組織の作成・収受した文書を第一に保存・公開する施設のことですから、行政文書の文書館への円滑な引き継ぎと公開の在り方が議論の中心となるのは、当然のことと言えます。

アーキビスト養成問題については、各地方公共団体の事情に基づいて、各館の実情と考え方が紹介されました。その他、私文書の所在調査推進、歴史資料のマイクロ化等、それぞれ突っ込んだ議論が交わされ、有益な意見交換が行われました。

また、今回の会議では、四国地区の文書館にもこの会議への参加を呼びかけることを決めました。

なお、この会議の主催は各館一巡し、今年度より二巡目に入りました。今後も、より一層の議論の深化が期待されます。（梅村）

文書館の防災対策と災害対策ネットワークを！

－「全史料協」第21回大会で真剣に討議－

〈昨年一月一七日に発生した大震災は、阪神淡路地域に味曾有の被害をもたらした。この不幸な事件から教訓を学び取って、将来の災害に備えることが、文書資料の保存利用を任務とする全国歴史資料保存利用機関連絡協議会のメンバーにとって、最も大切なことである〉。

このような観点から、今年度の全史料協の研究大会は、「災害と資料保存」という緊急テーマを設定して、近畿地区の和歌山県で開かれました。全国各地から、機関会員や個人会員が様々な防災対策の知恵を持ちより、実際の被災体験や救援活動の事例を報告しあって、主会場の和歌山県立文書館を緊張感で一杯にしました。

特に、全史料協が参加した「阪神淡路大震災被災文化財等救援委員会」の活動をつぶさに点検し、被災地の真ん中に位置した尼崎市立地域研究史料館員の奮闘を聞いて、地域に密着した資料救済活動の大切さを痛感する研究大会でした。

もちろん、災害は多種多様で、カビの発生から、小さな虫の害、恐ろしい火災や水害、あるいは不慮の盗難など、日常的に注意して対策を講じておかなければならないことが多く、気が引き締まる思いでした。かけがえのない文書記録を集中的に保存していればいるほど、いったん災害にあってしまえば、被害が大きくなるということを肝に命じておかなければならないのです。集中保存が集中喪失につながっては大変です。万全の防災対策が緊要です。

いくつかの教訓の中から、具体的なものを次に紹介してみます。

「文書庫の建設に当っては、水害の常襲地帯であることを考慮して、三階に設定した」というのは、埼玉県八潮市の資料館です。

「水に浸かった文書は、すぐ凍結を！」と呼び懸けるのは、火災消火の水損文書を救済した草加市の市史編さん室です。

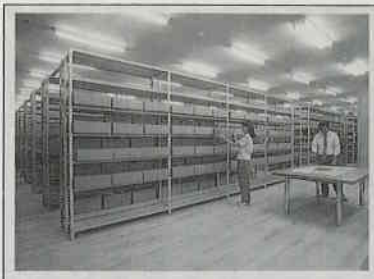
「凍結で、カビの発生や紙の腐敗を食い止めることが重要です。その後で、真空乾燥機を使って処理します」と凍結真空乾燥法を説くのは、国立史料館です。山口県内でも、この方法が有効だったことは、別報のとおりです。

（戸島）

全史料協も参加した阪神淡路大震災被災文化財等救援委員会の明石市での救済活動（４月19～20日）。当館からも１名が駆けつけた。

〈他館見学〉

あいつぐ文書館の建設



▲和歌山県立文書館の収蔵庫（古文書用）
空調設備・ハロンガス消防装置を完備し、常温常湿で文書を最適の状態で保存します。

甲信越、東北地方にも新しい文書館

両館ともここ三～四年の間に開館した新設館です。平成七年三月中旬に両館訪問を果たしました。片や甲信越地方、片や東北地方最初の公文書館です。両館の共通項は複合施設であることです。新潟（教育委員会部局）は図書館・生涯学習推進センターと、秋田（知事部局）は図書館と各々併設されています。したがって、館長ほか兼職ですし、閉館時間が平日の場合十九時までとなっています。

●新潟県立文書館（平成四年八月開館）

新潟駅の南西、鳥屋野潟に面した市街地から離れた閑静な公園に立地しています。周囲には野球場や県立自然科学館があります。

図書館ほかを含めた複合施設（地上二階）の総床面積は約一一〇〇〇㎡、うち文書館専用面積が約九〇〇㎡、共用面積約三九〇〇㎡です。書庫面積は六一七㎡で、アルカリガス除去装置や恒温恒湿空調が施され、事務室に温湿度記録盤が配備されています。

精力的に活発な運営を展開しているとの印象を強くうけます。運営協議会や文書調査員の設置をはじめ、出張くん蒸を実施したり、文書所蔵者のところに「史料保存日誌」を配架させるなどきめ細かな活動に努めています。この背景には、山口県の二倍の面積、二倍の市町村数を抱える大県として、県史編纂事業終了から開館に至ったとはいえ、県庁を含む広く県民一般に認知してもらうためには並の努力ではすまされにくいのだということです。

●秋田県公文書館（平成五年十一月開館）

県庁や文化会館・県立体育館など公共施設の集中する一角にあります。複合施設（地上四階・地下一階）の総床面積は約一二五〇〇㎡、公文書館専用面積約二〇〇〇㎡、共用面積約四四〇〇㎡。うち書庫面積約一五〇〇㎡で、ビデオシアター室や特別展示室を備えています。

書庫のうち貴重書庫（二三五㎡）の内壁を秋田産の板壁とし、一部桐箪笥に収納するほか、収納箱や収納箪笥を全て中性紙製を使用するなど文書保存に細心の注意をはらっています。損傷の目立つ近代行政文書のマイクロ化、戦後県政ニュースフィルムの修復とビデオ化にあたっていますし、図書館から引継いだ藩政史料の翻刻事業も行っています。

（吉積）

●和歌山県立文書館

和歌山大学が移転した跡地に「紀ノ国志学館」とネーミングされた瀟洒な三階建て館舎が立ち、その中に県立図書館とともに収まっています。コンパクトに見えるのは、図書館の書庫を地下に広く取っているからでしょう。広々とした書庫は、貴重書の収蔵にふさわしい贅沢さで、羨ましいかぎりです。これから収蔵する文書量を見据えた書庫面積の確保に、後発館の意気込みを見た思いです。（戸島）

〈史料紹介〉

「三坂圭治文庫」と「石川卓美文庫」

平成五年は、山口県の歴史界にとって、三坂圭治、石川卓美両先生を相次いで失った歴史的な年でした。

今更云うまでもない事ですが、両先生は、戦後の山口県歴史学界を、三坂先生は大学教授の立場から、一方の石川先生は図書館・文書館の立場から支えるとともに、後進の指導に大きな影響を与えてこられた重鎮でした。

特に、戦後の昭和二七年に発足した山口県地方史学会に於いては、発足当初から中心的な役割をつとめ、会長・副会長或いは名誉会長として会の発展に大きな貢献をされました。

また、山口県文書館との関わりは特につよく三坂先生は「山口県文書館の生みの親」、石川先生は「山口県文書館の育ての親」として、館の設立、収集整理、出版活動、或いは監修の立場で大きな貢献をされています。

この度、ご遺族のご好意により、研究書・研究のための収集資料・研究ノート・未発表原稿・歴史図書などの寄贈を受けましたので、各先生の名前を冠して文庫名にしました。

以下、それぞれの文庫を紹介しましょう。

▽「三坂圭治文庫」

三坂圭治文庫の一部

三坂圭治文庫は、先生の大学在学中から、公爵毛利家両公伝編纂所を経て、山口県に帰り、公立高校長、山大教授、山口芸術短大副学長を歴任し、晩年に至るまでの間の自ら記録したり他の研究者から送られた研究資料等で、収蔵点数は一六二八点を数えます。

文庫の内容は、次の四群に区分できます。

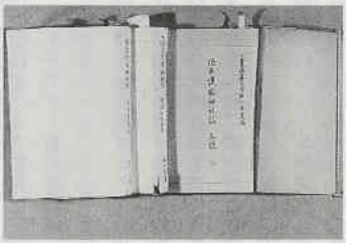
①郷土史研究のための資料（小冊子や書籍）

②先生が関わられた歴史編纂の原稿（両公伝編纂所のもの・監修した市町村史編纂の原稿）

③東京帝国大学在学時の受講ノート

④山口大学での講義ノートおよび資料

▽「石川卓美文庫」



石川卓美文庫の一部

石川卓美文庫は、先生が県立山口図書館に奉職されて以来、旧県史編纂委員、県地方史学会役員、あるいは文書館勤務など、常に山口県の歴史学界と身近に接してこられましたが、その間に書写された文書資料等が中心で、その収蔵点数は三六九点を数えます。

文庫の内容は、次の四群に大別できます。

①藩制期から明治期にかけての原史料

②研究のために筆写採録された史料

③研究課程における自筆の原稿・稿本

④出身地区の山口市平川地区に関わる資料

（小山）

〈誌上展示〉

天下人と毛利氏
秀吉とねねの文書

今回は、当館に架蔵する豊臣秀吉とその妻ねねが、毛利氏側に宛てた文書を紹介します。

写真A　卯(四)月十九日付「羽柴秀吉書状」（末尾の部分）……村上家文書

これは、豊臣秀吉が、羽柴筑前守と名乗り、織田信長のもとで中国地方を攻略していた頃のもので、天正十年（一五八二）と推定されています。宛先である村上大和守（武吉）は、村上水軍の頭目で、毛利方の武将でした。秀吉は、文中で「此節御忠儀肝要候」と勧め、武吉を織田方へ寝返らせようとしています。秀吉の花押には天下人の気迫があります。

写真A

写真B　六月十八日付「豊臣秀吉朱印状」（末尾朱印の部分）……中村家文書

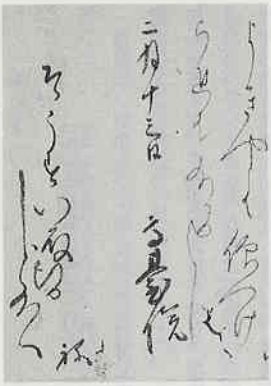
秀吉は、主人信長の死後から、文書に朱印を押すようになります。宛先は毛利右馬頭（輝元）で、先に箱崎（現福岡市）において受け取った輝元からの書状に対する返事です。文書の内容は、筑前・筑後両国の城に関すること（普請と破却）、博多町中改めのことなど、九州の統治に関することです。そうすると、この文書の年代は、毛利氏以下を動員して薩摩の島津氏を降伏させ、箱崎で九州諸大名の封域を定めた、天正十五年（一五八七）と考えることができます。

写真B

写真C　二月十三日付「高台院（豊臣秀吉北政所）消息」（末尾部分）……毛利家文庫

ねねは、夫秀吉の死後、出家して高台院と称しました。宛先は、「そうすい殿」、すなわち毛利宗瑞（輝元）です。「けんもつ（監物）」が病気で、「さまのすけ（左馬助）」がそちらに下るが、若輩なので、「よきやうに仰つけられ候て給へく候」（よろしく取り計ってやって下さい）という内容です。内田九州男氏（愛媛大学）によれば、この消息は高台院の自筆と判断でき、「監物」とは、毛利家臣ながら秀吉にも重用された柳沢元政、「左馬助」とは、その次男元吉のことで、元吉は、高台院がその成長を見守った者たちの一人だったのではなかろうかと考えられています。

（平瀬）



写真C

ワンダー文書館

「知られていない」文書館、「不思議な」文書館という声におこたえしての欄がこのコーナーです。「ワンダフル」文書館になっていきたいものです。

ブンショ(文書)をモンジョ(文書)へ

ー阿東町の試みー

阿東町郷土史研究会に集まった人々

阿武郡阿東町では、郷土史研究会が、町当局に働きかけて、歴史的に重要な行政文書を保存していくために、評価・選別を開始しています。町内の支所に旧村役場文書が保存されていることに加えて、当面の行政上の利用がなくなった文書の廃棄に際しても、その一部を歴史的に保存しておいて、古文書にするためだそうです。

その重要性を、会員全体と町職員で確認しておきたいということで、文書館に解説の依頼がありましたので、「ブンショをモンジョへ」というタイトルで、計画的な古文書づくりの大切さを訴えてきました。（戸島）

〈その後の水損文化財〉

蘇った版本大般若経

本誌28号（一九九四年）において、水損を被った防府市阿弥陀寺の版本大般若経について、それらの蘇る可能性があることをお知らせしました。その後、真空凍結乾燥法を施されたうえ、専門業者による修理を経て、一部の経本が、被災以前の状態に蘇ったという朗報に接しました。詳しいことは、貞平慎太郎「甦った！版本大般若経」（『山口県文化財』26、一九九五年）をご覧下さい。

（平瀬）

譜録（ふろく）の写真帳化完成

当館は、昭和六十一年度から毛利家文庫23「譜録」の写真複製に努めてきました。三千冊近い冊子本が写真撮影されたのち、紙焼きされたプリントに堅牢な製本が施され、今年度やっと写真帳化が完成しました。写真帳の数は四百三十四冊で、実に十年がかりでした。この写真帳は、書架に並べ、どなたの閲覧請求にもすぐに応じることができるようにしています。この事業の完成によって、長州藩士各家の系図・略歴・伝来古文書の一斉調査である「譜録」が、原本を傷めることなく、便利に活用できるようになりました。（平瀬）

〈閲覧室から〉

進む文書目録の刊行

当館には三〇万点を越える文書が所蔵されています。そのような膨大な文書群の中から、必要な文書を探し出す時に手助けをしてくれるもの、それが文書目録です。

当館では、『毛利家文庫目録』『徳山毛利家文庫仮目録』など藩政文書の目録をはじめとして、多くの文書目録を刊行しています。近年新たに刊行を開始した目録について紹介してみましょう。

行政文書目録

平成四年度から新たに『行政文書目録』の刊行をスタートさせました。これは、文書の完結年を基準に文書を一〇年毎にまとめた目録で、現在、一九四〇年代に完結した簿冊文書の目録（『行政文書目録―一九四〇年代完結簿冊文書―』）と一九三〇年代に完結した簿冊文書の目録（『同―一九三〇年代完結簿冊文書―』）を完成させています。文書の配列は、作成した部・課別となっています。

なお、戦前の行政文書については、『行政文書仮目録　戦前の部』も刊行しています。『行政文書目録』と合わせて利用してください。

行政資料目録

行政資料は、形態別に、冊子類・リーフレット・ポスター・地図・写真などに分けられます。平成三年度より『行政資料目録』の刊行を始め、現在、一九四〇～五〇年代に作成された冊子類の目録（『行政資料目録1』）、一九四〇～六〇年代に作成されたリーフレット・ポスターの目録（『同2』）、一九五〇年代までに作成された地図の目録（『同3』）を刊行しています。

『行政資料目録』も作成部・課別に文書を配列しています。『行政文書目録』と合わせて活用することで、県庁各部課の動きを浮かび上がらせることができます。

諸家文書目録

諸家文書には、すべて家ごとの「手書目録」が作成されています。しかし、「手書目録」は当館の閲覧室でしか利用できないものです。そこで、より多くの人に諸家文書の情報を提供するために、平成五年度から『諸家文書目録』の刊行を始めました。目録刊行に当たっては再度文書の整理を行うこととし、「手書目録」以上の情報を盛り込めるよう努めています。

現在、旧玖珂郡域内の文書を対象に、『諸家文書目録』1～3を刊行しています。1～2には柳井市金屋小田家文書を、3には柳井市和田小田家文書ほか七家の文書を収録しています。以後、県東部のものから順に、目録を刊行していく予定です。

総計三〇万点をこえる〝文書の山〟、そこに分け入るには文書目録という〝地図〟を手放すことはできません。文書館職員という〝道案内人〟もお手伝いをします。〝地図〟と〝道案内人〟を使って、上手く目的地（文書）にたどり着いてください。

もちろん、〝文書の山〟で寄り道をしたり、道に迷ってしまうのも、それはそれで楽しいことですが。

（山﨑）

写真メモ・1996年

＊＊＊＊＊＊＊＊

奈良大学地理学ゼミ一行の来館

今年度は、奈良大学から地理学教室二三名の訪問を受けました。歴史地理学を研究する立場から、近世の城下町「萩」や近代の産業都市「宇部」など、山口県内の諸都市にスポットを当てようとする大学生と先生の御一行です。文書館が収蔵している江戸時代から現代までの絵図・地図資料と、その利用の仕方を案内しました。

YAB〝5時からワイド〟に文書館

さくら散る四月一三日、〈山口みつけ隊〉が文書館にやってきました。普段は立ち入ることができない書庫の中を見せて欲しいというわけです。わずか一五分間番組の製作とはいっても、三人一組のスタッフが、まる一日をかけての録画取材で、その対応も大変でした。

巻子に仕立てられた中世の古文書や、広く大きい近世の長門国絵図などから、現代の行政文書や行政資料に至るまで、静かに出をまっている文書資料の様子が伝えられたかな、と思っています。

小野田市と錦町で歴史講座

〈石灰・セメント・硫酸会社〉（小野田市会場）、〈山間地域の歴史と民俗〉（錦町会場）、とキャッチフレーズを付けて各三回、合計六回、歴史講座を開催しました。

今年度も、それぞれ古文書・古記録から、その地域の歴史を掘り起こして、大好評でした。これからも、開催する地方地方の独自色を出す歴史講座を目指します。

広報写真フィルムの引き継ぎ

今年度は、県庁広報課と教育庁総務課の双方から、広報写真フィルムの引き継ぎがありました。それぞれ従来のものに追加して、大切に保存します。

広報写真資料は、文書記録と共に保存すべき、大切な県政資料の一部です。特に広報課のものは、四十か年分・一万本以上に上っています。

公文書の引き継ぎをスムーズに

学事文書課が主催する今年度の文書登録事務説明会は、全ての出先機関を対象にして、県内七か所で行われました。文書館からは、保存年限の満了した公文書について、円滑な引き継ぎを依頼しました。

昨年度は、県庁と教育庁の各課に対して、同様の依頼をしていますので、これで山口県の全ての機関に対して、説明が一巡したことになります。

「地下上申絵図」約一三〇〇点を総点検

今年度は、秋の資料整理週間や月末資料整理日などの休館日を使い、最も利用度の高い「地下上申絵図」を総点検しました。専用の資料カードを用意し、全員が手分けして、形状や大きさや傷みの状態を記録し、修理や複製などに必要な情報を一点ごとに掌握しました。

特に、「地下図」と呼ばれる絵図の裏書きはすべて写し取りましたから、以後、この希有な村絵図群の製作過程などを研究する必須の手がかりになることでしょう。

「御両国測量絵図」（七枚一組）

毛利家に伝わり、現在、当館が所蔵する伊能忠敬の測量絵図は、「大図」と呼ばれる種類のもので、一里（約四キロ）の距離を三寸六分（約一二センチ）の長さで表現しています。つまり、三万六〇〇〇分の一の縮尺で、毛利氏の防長二か国の領域が、七枚一組の絵図として、精密に描かれています。

このほか、伊能忠敬の測量絵図には、「中図」と呼ばれる二一万六〇〇〇分の一の縮尺のものや、「小図」と呼ばれる四三万二〇〇〇分の一の縮尺のものなどがあり、それぞれに正図と副図があって、本来は数多くあったようですが、火災や大震災などで失われて、現在は非常に少なくなっています。

フランスにあったものは「中図」で、八枚が一組で、日本全域が収まっています。

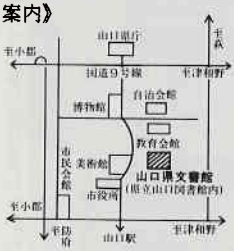
お知らせ・ご案内

▽平成8年度は、次の講座を開催します。

4／9　古文書専修（上級）講座1
5／14　古文書専修（上級）講座2
6／11　古文書専修（上級）講座3
6／21　文書館歴史講座（萩市）1
6／28　文書館歴史講座（萩市）2
7／5　文書館歴史講座（萩市）3
7／9　古文書専修（上級）講座4
8／13　古文書専修（上級）講座5
8／26　古文書活用講座（教員対象）1
8／27　古文書活用講座（教員対象）2
8／28　古文書活用講座（教員対象）3
8／29　古文書活用講座（教員対象）4
9／10　古文書専修（上級）講座6
9／18　文書館歴史講座（徳山市）1
9／25　文書館歴史講座（徳山市）2
10／2　文書館歴史講座（徳山市）3
10／8　古文書専修（上級）講座7
11／12　古文書専修（上級）講座8
11／6　古文書基礎講座1
11／13　古文書基礎講座2
11／20　古文書基礎講座3
11／27　古文書基礎講座4
12／10　古文書専修（上級）講座9
12／4　古文書基礎講座5
12／11　古文書基礎講座6
1／14　古文書専修（上級）講座10
2／18　古文書専修（上級）講座11
3／11　古文書専修（上級）講座12

※実施の月日は、平成8年3月段階の予定です。詳しくは当館にお尋ねください。

《利用案内》



開館時間　平　日　9：00～17：00
土曜日　9：00～12：30
休 館 日　日曜日、祝日、月末整理日
年始年末、春秋文書整理週間

文書館ニュース　第三〇号
平成八年三月二九日発行
山口県文書館　電　話〇八三九㉔二一一六
FAX〇八三九㉔二一一七
〒七五三　山口市後河原一五〇－一